

## 5歳児 保育指導案

草津市立老上こども園 教諭 木戸 香里

1. 活動名 7月 萩で染めよう！世界に一つの自分だけのTシャツ！（萩染め）

### 2. 活動の目標

○地域の花「萩」という存在を知り、遊びに取り入れることで地域の良さを感じ愛着をもつ。

(知識及び技能の基礎)

○地域の方に教えてもらい、草木染めができることを知る。

(学びに向かう力・人間性)、(知識及び技能の基礎)

○煮ることで布が染まる不思議さを感じたり、一つとして同じではない模様をつけたりすることができることを知る。

(思考力・判断力・表現力等の基礎)

○煮出した萩の葉が肥料となり、草花を栽培するための土を改良することができることや、その肥料が新たな植物の生育につながることを知る。

(知識及び技能の基礎)

### 3. 活動によせて

#### (1) 教材観

本活動では、「萩」の葉と茎、花を使って染め物を行う。本園のある野路の玉川は、平安時代から有名になった歌所で、萩の玉川ともいわれ、日本六玉川の一つとして知られている。今日でも詩に詠まれた「萩」の花を守るため、地域が各所に栽培を行い大切に保管されている。このように、染め物に使う「萩」は子どもたちが普段生活する中にたくさんあり、登降園時やふるさと探検などで日頃から目にしているものである。子ども達に身近な「萩」を使うことは、活動への意欲や興味関心を高めることができると考える。

また、これまで色水遊びを経験し、草花から色を出し紙や布を染めるという経験を重ねてきた。地域の特産を使って染め物を行うことで、より地域に愛着をもったり、様々な模様ができることから“違い”に気づいたりすることができる。自然物なので、染め物をした後の廃材は、園にある畑に埋めることで堆肥となり、様々な事が循環しているということを体感できる教材であると考えます。

#### (2) 児童観

園児は、色水遊びを繰り返し楽しみ、色の違いに気づいたり、布や紙が染まる不思議さを感じたりしながら繰り返し遊んでいる。この活動では、地域の特産である「萩」を使うことで、昔から大切にされている植物の存在を知るとともに、地域在中の工芸美術家に草木染めを教えてもらうことで、地域と密着し、コミュニケーションを深められる。

また、染め物を通して一つとして同じ模様ができないオリジナリティに気づくことができる。

#### (3) 指導観

本活動に当たって、まずは色水遊びを充実させていく。そのことを通して、どのような草花でも色が出るのか試したり、探求心を深めたりしていきたい。

次に、地域の花である「萩」でも色を出せることを知らせ、地域の方を講師として招き、染め方を教えてもらう中で、コミュニケーションを深め人とのかかわり方や繋がりを意識できるようにしたい。

また、染め物は、一つとして同じ模様が出ることはないため、一人一人の模様の“違い”や、他に2つとないオリジナリティ性のある作品ができる喜びを味わえるようにかかわっていく。

さらには、これらの活動を通して、地域が大切にしている「萩」を自分も大切に扱う心を育み、染め出しに使った廃材が畑の堆肥になることを知り、今後の栽培活動につなげるとともに、工夫することで廃棄するものがでないようになることを気づけるように指導していく。

#### 4. ESD との関連

##### ・ 本活動で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

相互性…古くから、「萩」を守る人、染め物を教えてくれる地域の人、身の回りの自然環境があるというつながりで、本活動が行えているということ。

有限性…昔から地域に残る大切なものをみんなで引き継いでいく。みんなで「萩」大切に守っていくことで、この活動が次年度以降も連続的に続いていくということ。

連携性…一人ではできない活動も、たくさんの人との繋がりで行えた活動であるということ。

##### ・ 本活動で育てたい ESD の資質・能力

多面的・総合的に考える力

・ 太陽の光に当て続けると色が褪せていく事を知る。（思考力の芽生え）

未来像を予測して計画を立てる力

・ 既成のものでは出せない色を見て、地域の花である「萩」を守っていくことの大切さを感じる。また、使用した萩を土壌改良に使用し、循環できることを知る。（自然との関わり生命尊重）

他者と協力する力

・ 萩染めの準備（萩刈り、運搬）友だちと協力して行う。（協同性）

つながりを尊重する力

・ 地域の人から萩染めの仕方を教えてもらい、「萩」への親しみを深める。（社会生活との関わり）

##### ・ 本活動で変容を促す ESD の価値観

自然環境、生態系の保全を重視する。

・ 自然の恵みに感謝し、工夫次第でゴミが減らせることを知る。栽培活動に意欲をもったり、遊びの中で出たゴミの再利用方法を自分なりに考えたりする。

世代間の公正

・ 古くから伝わるものを大切にしようとする人たちの存在を知り、自分たちだけではなく、次の世代も地域に親しみをもち、豊かな経験ができるまちづくりの大切さに気づく。

##### ・ 達成が期待される SDGs

1 1 住み続けられるまちづくりを

1 2 つくる責任、つかう責任

1 5 陸の豊かさを守ろう

5. 保育構想図（染め物に至るまでの遊びの流れ）

4月

草花を育てる



自然とのかかわりを楽しみ、遊びに取り入れて工夫する力



様々な種類の栽培物に触れ、自然の恵みを感じ親しみをもつ。

少し先のことに見通しをもち、期待を寄せられる力



5月～6月

色水遊びをする



友だちとイメージを共有したり、考えを伝え合ったりする力



7月

地域探検に出かける



地域に親しみをもち、かかわりを広げる力

地域に出かけ、由来や地域の人の思いを知る

菘刈りに出かける



## 6. 活動の評価規準

ア 知識・技能の基礎	イ 思考・判断・表現の基礎	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①地域の特産について知り、伝統的な染め物の仕方を知る。 ②様々な模様の付け方を身に付けている。 ③遊びに使ったものの再利用方法を考える。	①地域に愛着をもち、身近なひと・もの・ことを大切にしようとする。 ②自分と他者を見て、違いを知ったり、関心をもったりする。	①地域の人とかかわりながら、染め物体験に期待をもつ。 ②活動に必要なものを自分で用意する。

## 7. 保育指導計画

(1) 活動名 萩で染めよう！世界に一つの自分だけのTシャツ！（萩染め）（親子活動）

(2) ねらい 地域特有の教材に触れ、親しみをもつ。

内 容 親子で話し合いながら、染め物活動を楽しむ。

時間	子どもの姿	援助と環境構成	評価
9:00	○親子でまちづくりセンターまで歩いて行く。 ○本日の活動について説明を聞く。 ○講師の先生方に挨拶をする。（地域在住の工芸美術家） ○染め物のしかたや見本を見せてもらう。 ○親子で、模様付けをする。 ・親子で話し合いながら、ビー玉や割りばしを輪ゴムで縛り、模様をつけていく。 ・見本を見ながら、イメージを膨らませる。 ○鍋で煮る。 ・染液で煮たり、媒染液に浸けたりする様子を見る。 ○工芸美術家の方にお礼を述べて、園に戻る。	○本日の活動に期待をもつ。 ○地域特有の教材「萩」を使って、染め物をするのを知り、「萩」が野路の玉川で大切に保管されていることを再確認し、親しみをもつ。 ○伝統的な染め物を工芸美術家の方に教えていただくことで、様々な仕事があることを知る。 ○模様や染め上がりの色を実際見ること で、よりイメージが広がるよう見本を提示したり、工芸美術家の方に話をしてもらったりする。 ○わからないことは工芸美術家の方に尋ねるよう声をかける。 ○染め上がりに期待をもつ。 ○輪ゴムを外すことですぐに模様が見えるので、感じたことや喜びを親子で伝え合いながら活動を進める。	ア①② イ① イ② ウ①
13:00	○親子で輪ゴムを外し、染まった模様を見る。 ○輪ゴム、萩の煮出し殻をタライに集め、肥料として畑に撒く用意をする。	○友だちや自分の作品と見比べ、一つとして同じ模様がないことを知る。 ○活動に使ったものが、畑の肥料になり、土に還ることを知る。	ア③